（１）海外誘客（インバウンド）と国内誘客の推進

■ 現状と課題

・訪日旅行者数は円安やビザの発給要件の緩和等により、２０１４年には過去最高の１，３４１万人を記録するなど急速に増加していますが、今後ラグビーワールドカップ２０１９や２０２０年東京オリンピック・パラリンピックなど世界の関心が日本に寄せられる中、ますますの誘客を促進するためには、観光産業において、情報発信と受入態勢の整備が課題です。
・人口減少と高齢化により国内観光需要は長期的には低迷が懸念されています。そのような中で年々増加している個人旅行など、多様化する旅行ニーズに対応した観光メニューの開発や情報提供が求められています。

■ これからの基本方向

・国内誘客対策を強化することで日本人観光客の減少幅を最小限度にとどめるとともに、世界的なスポーツイベントを契機とした海外へのきめ細かな情報発信による外国人観光客のさらなる増加により、おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーン開催年と同等の観光客数を維持します。
・外国語による観光案内や多言語対応の推進、Ｗｉ－Ｆｉ環境の整備により、外国人観光客が旅行しやすい受入態勢を整備します。さらには、おもてなしの向上や二次交通対策等安心して快適に旅行できる環境づくりを進め、訪問者の満足度を上げることで、国内外問わず新規の訪問客を開拓するとともにリピーターの定着化を促進します。
・九州各県と連携した「ＯＮＳＥＮ ＩＳＬＡＮＤ ＫＹＵＳＨＵ」による誘客促進や、航空機・フェリー等広域交通を活用した県境を越えた広域観光ルートづくりなど、広域連携の取り組みを強化します。
・観光誘客の施策を一体的に担うツーリズムおおいたの取り組みを充実強化します。

■ 主な取り組み

①海外誘客（インバウンド）対策の強化

・東南アジアからさらに欧米など誘客対象地域の拡大
・ターゲット国に応じた観光素材の効果的活用と魅力ある観光ルートづくり
・現地旅行会社や日本の旅行会社現地法人との緊密な連携による誘客の促進
・宿泊施設における多言語対応、ハード整備など積極的な受入に向けての機運拡大
・ラグビーワールドカップ２０１９、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした世界への情報発信
・海外からの航空路線やクルーズ船などの誘致促進
・外国人観光案内所の整備などによる、まちあるき環境の整備促進
・海外誘客（インバウンド）に対応できる特区ガイド等の育成・確保

・免税店の拡大や海外カード対応の促進などによるショッピング環境の改善
・Ｗｉ－Ｆｉ環境の整備促進や、ＡＲなどＩＣＴを活用した観光・交通情報の提供

②国内観光客確保策の推進

・圏域ごとのニーズを的確に捉えた誘客戦略の展開
・ＭＩＣＥや教育旅行、国内クルーズなど団体誘客の促進
・「おんせん県おおいた」など本県の強みを生かした継続的な情報発信
・グリーンツーリズム、ブルーツーリズムなど体験型観光の充実
・スポーツツーリズムやロケツーリズムなどニューツーリズムへの対応促進
・高齢者や障がい者など全ての人が楽しめるユニバサールツーリズムの推進
・おもてなし研修、トイレクリーンアップなどソフト・ハード両面による受入環境の整備
・観光ガイドの効果的活用による観光客の満足度向上
・観光地間のネットワーク強化や案内所機能の充実、二次交通の整備による受入態勢の整備促進

③広域連携の強化

・九州各県と連携した「ＯＮＳＥＮ ＩＳＬＡＮＤ ＫＹＵＳＨＵ」による誘客促進
・県内外のＬＣＣを活用した九州広域の観光ルートづくり
・航空機、フェリー等交通路線就航先との連携推進による誘客対策

④観光誘客推進体制の整備

・誘客のための観光素材磨きや情報発信、受入環境整備などを担うツーリズムおおいたの日本版ＤＭＯに向けた充実強化

■目標指標

指標名	基準値（Ｈ26年度）	目標値	
		Ｈ31年度	Ｈ36年度
県内宿泊客数	6,101千人	7,100千人	7,300千人
外国人宿泊客数	400千人	800千人	1,200千人

（２）おんせん県おおいたの地域磨きと観光産業の振興

■ 現状と課題

・地域資源を磨いて地域が輝き、人が訪れることで観光地となり、観光客が増えることでさらに地域が元気になることがツーリズムの本旨です。今後より多くの観光客に訪れてもらうためには、日本一の温泉や素晴らしい食の魅力をはじめ、地域の特徴ある観光素材の発掘と磨きを継続することが必要です。 加えて、訪れた観光客の満足度を高めるためには、ふるさとガイドの活用や、観光を第一線で支える人材の育成と次代のツーリズムを担うリーダーの育成が不可欠です。

・人々のたゆまぬ努力により保全されてきた本県の素晴らしい自然景観は、地域の財産のみならず、観光資源としても重要です。しかし、近年の人口減少や高齢化等により、景観や見晴らしを阻害している樹木の伐採等が困難になってきています。また、観光客に気持ちよく周遊してもらうためには道路の環境整備などおもてなしの向上も重要です。

■ これからの基本方向

・地域の良さを伝えるふるさとガイドを積極的に活用するとともに、おおいたツーリズム大学による地域づくりのリーダーの育成、支援を継続します。

・湧出量や源泉数だけではない「おんせん県おおいた」らしい温泉の活用や、食、自然･歴史、文化、アートなど、地域の特徴ある観光素材磨きを推進します。

・滞在時間の延長につながるイベントの開催や地産地消による食の提供、土産物づくりなどにより、観光関連産業の振興と地域活性化を推進します。

・景勝地などの自然環境を楽しむビュースポットで、眺望を阻害している樹木等を伐採し景観の再生を図るとともに、魅力ある道路環境の形成に取り組みます。

■ 主な取り組み

①観光人材の育成・確保

・観光ガイドの育成と相互の交流・研修などによるスキルアップ
・ツーリズム大学を通じた、次代の地域づくりと観光を担う人材の育成
・宿泊施設に対する人材育成支援による雇用の定着とサービスの質的向上
・デスティネーションキャンペーンを契機に発足した県民挙げた「おもてなしサポーター」の取り組み継続

②おんせん県ならではの素材磨きによるブランドイメージの確立

・多彩な温泉の活用による商品開発など温泉そのものの磨き上げ
・世界農業遺産や日本ジオパークなど地域ブランドの観光への積極的活用
・県立美術館やしいきアルゲリッチハウス、各地域のアートイベントなど芸術文化を活かした観光の振興
・六郷満山開山１３００年など、タイミングやエリアの特性等を考慮した戦略的な観光情報の発信

③観光消費の増大につながるサービスや商品の開発促進

・大分県ならではの素材を活かした観光ルートや魅力ある着地型旅行商品の開発
・宿泊増や連泊につながる、泊食分離や夜イベントの創出
・地域への経済波及効果が高い、地産地消による魅力ある飲食や土産物の提供
・おんせん県を印象づける「おんせん県ロゴ活用商品」のさらなる開発促進

④観光関連産業の持続的成長と雇用拡大

・裾野の広い観光関連産業の連携促進による経済的相乗効果の創出・拡大
・積極的な施設更新など経営革新の取組や事業のスムーズな継承への支援
・事業支援や起業支援などによる経営基盤の強化と雇用の拡大

⑤景観の再生とツーリズム基盤の整備

・地域独自の歴史や文化を取り入れた魅力ある空間の整備や展望阻害樹木等の伐採による景観の再生、観光客へのおもてなしに配慮した公共施設の管理の推進
・ツーリズムを支援する道路整備や良好な景観形成に資する無電柱化の推進

■ 目標指標

指標名	基準値 （H26年度）	目標値	
		H31年度	H36年度
観光入込客数	17,537千人 （H24年度）	20,300千人 （H29年度）	20,850千人 （H34年度）
観光消費額	1,986億円 （H24年度）	2,395億円 （H29年度）	2,600億円 （H34年度）